

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H02733

研究課題名(和文) サブサハラ・アフリカの経済発展における「緑の革命」の位置づけ：アジアとの比較から

研究課題名(英文) The position of "Green Revolution" in the economic development of sub-Saharan Africa: comparisons with Asia

研究代表者

櫻井 武司 (Sakurai, Takeshi)

東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・教授

研究者番号：40343769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はまず、独自に構築した長期パネルデータを使って、次のことを明らかとした。サブサハラ・アフリカの諸国で観察されているコメの生産性上昇が持続的なものであった、その生産性上昇はアジアの緑の革命と同様に改良品種の採用や化学肥料の投入に支えられているが、圃場の均平化、畦の構築、正条植えなどの栽培技術の採用も不可欠であった。次に、栽培技術の普及に対する農民へのトレーニングの効果を、ランダム化比較試験により厳密に検証した。その結果、栽培技術のトレーニングは生産性向上に有効であった。さらに、籾米の品質向上にもトレーニングが有効であることを示し、技術普及を通じた農家の所得向上の可能性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、灌漑施設が発達していないサブサハラ・アフリカにおいても、かつてのアジアでおこった緑の革命に匹敵するような持続的なコメの生産性向上が可能であることを、しかしアジアと違って圃場の均平化、畦の構築、正条植えなどの栽培技術を同時に広める必要があることを明らかにしたことである。また、農民へのトレーニングが栽培技術の普及に有効であることを示したことは、サブサハラ・アフリカの稲作支援策に向けた有意義な示唆であり、社会的な意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：This study first using originally constructed long-term panel data showed that (1) the observed increase in rice productivity in sub-Saharan African countries was sustained; (2) the increase in productivity is supported by the adoption of improved varieties and chemical fertilizer inputs, as in the Asian Green Revolution, but the adoption of cultivation techniques such as leveling the field, building bunds, and strait row planting was also essential. Next, the effect of training farmers on the diffusion of cultivation techniques was rigorously tested in randomized controlled trials. The results showed that training in cultivation techniques was effective in increasing productivity. Furthermore, training was also shown to be effective in improving the quality of paddy rice, indicating the possibility of increasing farmers' income through technology diffusion.

研究分野：農業経済学、開発経済学

キーワード：海外学術調査 サブサハラ・アフリカ 稲作 緑の革命 パネル・データ ランダム化比較試験 栽培技術 トレーニング

## 1. 研究開始当初の背景

アジアでは「緑の革命」による食料の増産が経済成長に先行したことが知られている。アジアの緑の革命が経済に及ぼした影響は多岐にわたるが、中でも教育投資の増大と食料価格の低下が労働集約的な製造業を繁栄させ、長期にわたる経済成長を実現した。他方、サブサハラ・アフリカ(以下、アフリカ)ではその間、農業生産性は低位に留まったままだった。しかし、現在ではアフリカの各地でアジアの緑の革命に匹敵する農業生産性の上昇が報告されている。この生産性上昇が現時点では都市の需要を満たしていないことは明らかであるが、そもそもアフリカの近年の農業生産性の上昇(仮に緑の革命と呼ぶ)は、アジアの緑の革命と同じ性質のものなのだろうか？そこで本研究は、アフリカの緑の革命をアジアとの比較の観点から分析することにより、アフリカの経済発展における農業生産の位置づけを明らかにすることを目標とする。

## 2. 研究の目的

アジアで見られた農業生産性上昇と経済成長の関係を、アフリカにおいて検証することを課題とする。具体的な問いは、アフリカで現在観察されている農業生産性の上昇に持続性はあるか、農業生産性の上昇がもたらした農家所得の増加は人的資本の投資を促しているか、農業生産性の上昇は非農業所得の上昇にも貢献しているかの3つである。

## 3. 研究の方法

申請者が申請時に構築していたアフリカの各地のコメ農家のパネルデータ(ただし一部にクロスセクションデータの場合もあり)を本研究により長期化することで、農業生産性と人的資本投資、非農業所得の因果関係を解明する。対象とする国は、モザンビーク、コートジボワール、ガーナ、ウガンダ、セネガル、タンザニア、ザンビア、ケニアの8か国である。第一回の調査から6年から20年の間隔となり、その間に採用された技術が継続的に用いられているか、周辺村落の農家に伝播しているかを確認し、生産性向上技術の「持続性」の有無とその要因を解明する。

同じパネルデータを使って生産性向上技術の採用による所得向上が農家家計の教育投資と非農業所得に及ぼす影響について解明することを当初の目的としていたが、その課題に取り組む前にそもそも技術普及が有効なのかについてランダム化比較試験により解明することにした。

## 4. 研究成果

### (1)生産性の長期的上昇

#### 低湿地における天水稲作の事例

アフリカの水田の大半は、低湿地に作られた灌漑のない天水田であり、灌漑水田が卓越するアジアと大きく異なる。天水低湿地稲作はアフリカを代表する稲作である。ここでは、長期的なデータが得られたタンザニア、コートジボワール、ガーナ、ウガンダにおける研究成果を示す。

タンザニアでは全国の主要な稲作地帯から選んだ76か村を対象に2009年に実施した稲作農家調査を2018年に再び実施した。天水稲作農家の平均単収は1.9t/ha(N=539)から2.3t/ha(N=618)に増加していた。採用技術を見ると改良品種、化学肥料、畦、田植えの採用がいずれも有意に増えている(Nakano and Magezi, 2023)。

コートジボワールでは内陸部のブアケ周辺の26か村で2000年に調査した194戸の天水稲作農家を2020年に再調査した。そのうち2020年に稲作を行っていた127戸を比較するとコメの単収は1.8t/haから2.6t/haに上昇していた。採用技術では、化学肥料の利用や田植え、用水路の利用などは20年間でほとんど変わらず、単収の増加にも貢献していない。品種については、2000年の時点で50%以上の農家が採用していた改良品種がほぼ姿を消し、病気に耐性のある別の改良品種が70%を占めるようになった。しかし、この品種変更は単収の増加には有意な影響を与えていない。他方で、2014年から普及が始まったアロマ系の新品種は、採用率はまだサンプルの5%にすぎないが、単収の増加と有意な相関があった(Komatsu, Saito, and Sakurai, 2022)。

ガーナでは北部のタマレ周辺で2010年に実施した天水稲作農家調査の対象農家600戸を2021年に再調査した。稲作を続けていた481戸の農家を比較するとコメの単収は2.1t/haから1.7t/haに減少していた。調査地では1998年から2003年に稲作技術改良プロジェクトが実施され、化学肥料、改良品種、畦の構築、圃場の均平化、点播などがパッケージで導入された。化学肥料と改良品種については採用率が持続的に上昇したが、労働投入を必要とするその他の技術は多くの農家が2021年の時点で利用を止めていた。1998年から2003年の稲作技術改良プロジェクトが実施された村とされなかった村の間では2010年の時点で単収に差があったが、2021年においても差は観察された。プロジェクト村では2.1t/haなのに対して、それ以外の村では1.5t/haであった。過去20年間の村ごとの雨量の変動を説明変数に加えると、雨量の変動の多いほど(早魃や洪水のリスクの高いほど)、稲作技術を持続的に採用する可能性が低く、その結果、コメの単収も低くなっていた(Atinga and Sakurai, 2023)。

ウガンダの東部地域の天水稲作地帯の調査では、2009年の時点でコメの単収が1.3t/ha (N=137)であった。その後、JICAによる稲作技術トレーニングが実施され、2015年にはトレーニング参加者(N=43)、不参加者(N=54)ともに単収が2.0t/haに上昇した。トレーニング直後の2011年の時点で参加者の単収はすでに2.0t/ha近くに達していたのに対して、不参加者の単収は1.6t/ha程度にとどまっていたことから、その後2015年までにはトレーニングを受けていない周辺農民に稲作技術が伝達していることが示唆された。周辺農民に伝達して単収に影響した技術としては化学肥料と田植えが考えられる。他方、畦はトレーニング参加農民の採用率が50%から90%に上昇したものの、不参加者の採用率に変わらなかった(Kijima, 2023)。

以上から天水稲作についてまとめると、ガーナの例を除いて6年から20年にわたりコメの単収は緩やかに上昇し、平均で2トン未満から2トンを超えるようになった。生産性上昇の要因としてアジアの緑の革命と同様に改良品種の採用や化学肥料の高投入が指摘できるが、それらを効果的にするためには圃場の均平化、畦の構築、正条植えなどが前提となるため、生産性向上のためにはアジア型の栽培技術の普及が必要である。タンザニアやコートジボワールでは技術普及プロジェクトとの関連は明確ではないが、ウガンダの例からわかるように技術普及は周辺に波及効果があるので、過去に何らかの介入があれば長期的には地域全体の単収を上昇させる可能性がある。しかし、ガーナではコメ単収の上昇が周辺村落に波及する傾向は観察されず、むしろ労働投入を必要とする新技術は放棄されていた。ガーナ北部の他の地域との大きな違いの一つは気象リスクである。タンザニアとウガンダの天水稲作地帯は年間降水量が2000mmを超える湿潤な地帯にあり、コートジボワールの調査地ブアケでも年間降水量は1700mm程度である。それに対してガーナ北部の年間降水量は1000mmしかなく、しかも変動が大きい。また氾濫原を利用するため、旱魃だけでなく洪水のリスクも存在する。

#### 灌漑稲作の事例

アフリカの灌漑稲作の面積は天水稲作と比べて非常に少ないが、生産性が高いため、ケニアやセネガルのように大きな灌漑稲作地区を持つ国では灌漑のコメの生産が当該国の国産米供給に重要な役割を果たしている。ここではタンザニア、ケニア、セネガルにおける研究成果を示す。

タンザニアの稲作農家調査に含まれる灌漑稲作農家についてコメの単収を見ると、2009年の3.7t/ha (N=154)から2018年には4.2t/ha (N=137)に増加した。採用技術を見ると天水稲作と同様に、改良品種、化学肥料、畦がいずれも有意に増えている。田植えについては正条植えの採用が増えている。天水稲作との違いは技術採用の水準であり、2018年と比べると改良品種については14.4%対57.7%、化学肥料は24.4kg/ha対89.6kg/haのように灌漑稲作における新技術採用の水準は高く、それが単収の違いにも反映していると思われる(Nakano and Magezi, 2023)。

ケニアでは同国最大の灌漑地区であるムエア灌漑地区を調査の対象とした。2011年に調査をした325戸の灌漑稲作農家のうち2019年に再調査できた178戸の稲作農家を分析の対象とした。その間に、JICAのプロジェクトにより稲作トレーニングが実施されており、178戸のうち104戸がトレーニングを受けている。2011年の単収は両群に違いがなく5.9t/haであった。2019年では全体の単収は6.9t/haに上昇している。トレーニング参加の自己選択を考慮しない単純な平均値の比較では、2019年の単収にトレーニング参加の有無に有意な違いはない。化学肥料の使用量は2011年が375kg/ha、2019年は540kg/haであり大幅に増えている。これもトレーニングの有無による違いはない。トレーニングの効果としては、2011年に採用が皆無だった正条田植え、疎植(15cm x 15cm)、手押し除草器の採用がある。2019年の採用率は、正条田植えが0.67対0.46、疎植が0.65対0.45、手押し除草器が0.26対0.03であり、トレーニング参加者で採用率が有意に高い。しかし、これらの違いは単収には影響していないようである。特筆すべき変化としてコンバインハーベスターの利用があり、2011年には皆無だったが、2019年にはトレーニングの参加によらずほぼ90%の農家が利用していた。以上は、主作期(8月から11月)における稲作の違いである。その他に、ラトゥーン(ひこばえ)作(12月から翌3月)と二期作(4月から7月)の拡大が顕著である。ラトゥーンは2011年の採用率は32%だったが、2019年には83%に上昇した。また2011年には皆無だった二期作が2019年には15%の農家で行われていた。いずれも、トレーニングの参加の有無による採用率の違いはない。こうした二期作やラトゥーン作を含めると、単位面積当たりのコメ生産は10.8t/haに上る(Chege, 2020)。

セネガルのセネガル川流域には、大小様々な規模の灌漑地区が存在し同国の国産米供給の半分以上を担っている。2012年の稲作農家調査では2011年雨期(7月から10月)に稲作をした農家の平均単収は4.5t/ha (N=228)であった。所属している灌漑地区の規模で分けると公共の大規模灌漑地区5.2t/ha (N=58)、村落で管理する小規模灌漑地区3.9t/ha (N=81)、民間投資により作られた私有灌漑地区4.5t/ha (N=89)であった(Sakurai, 2016)。2021年に実施した再調査では、主たる稲作の季節が雨期から高温乾期(3月から6月)にシフトしていることが確認できた。農家が実際に作付けした季節のデータだけを使って平均単収を求めると、公共の大規模灌漑地区で5.4t/ha、村落で管理する小規模灌漑地区で5.4t/ha、民間投資により作られた私有灌漑

地区 5.8t/ha であった。大規模灌漑地区の単収上昇はわずかだが、小規模の灌漑地区の単収は上昇し、大規模灌漑地区との差はなくなっている。セネガル川流域の灌漑稲作は、2012 年の調査時から大規模トラクターによる碎土、散播、300kg/ha を超える化学肥料の投入を特徴としており、2021 年にも変化は見られない。気温が高く日射量の多い高温乾期に作期を変えたことが単収増加の一因の可能性はある。小規模灌漑地区の栽培技術が向上し、大規模灌漑地区との差が解消したと考えられる (Sakurai, 2023)。

以上のように高投入によりアフリカの水準としては高い生産性を実現している灌漑稲作であるが、過去 10 年でまだ単収が上昇していた。しかし、上限に近づいていることが予想される。コメの生産量を増やすために、ケニア、セネガルともに安定した二期作の実現が求められている。

## (2) 天水低湿地稲作における技術普及介入の効果

当初の課題は、農業生産性の上昇がもたらした農家所得の増加は人的資本の投資を促しているが、農業生産性の上昇は非農業所得の上昇にも貢献しているかであった。今回の研究で構築したパネルデータを使ってその課題に答えることは可能であるが、生産性の長期的上昇を分析する中で、アジア型の栽培技術を広めるためのトレーニングの重要性に気づかされた。ウガンダの例では、トレーニングの効果が示されているが、分析からトレーニング参加農家の自己選択バイアスを完全に消すのは困難である。そこで、本研究の後半ではランダム化比較試験を採用して、いくつかの異なる観点からトレーニングの効果を厳密に評価することにした。

### トレーニングは有効か

アフリカの各地で行われている天水低湿地稲作は多様性に富んでいるが、アジアの緑の革命に倣った技術パッケージをトレーニングで伝えることは生産性向上に効果があるのだろうか。

本研究 (Kajisa and Vu, 2023a and 2023b) ではモザンビークを取り上げる。トレーニングの効果を検証するために、同国ザンベジア州の JICA 天水稲作プロジェクトで展示圃場を使った技術トレーニングを実施する際に、対象とする農民組織をランダムに選んで実験をおこなった。ここでは展示圃場でトレーニングを受けた農民が、自分の農民組織でメンバーに技術を伝達することが期待されている。トレーニングの内容は、以下の 8 つの稲作技術のパッケージである。推奨された品種の利用、種子選抜をすること、苗代の作り方、圃場の均平化、畦の構築、正条田植えまたは正条点播、適切な時期の除草、稲穂でなく根本からの稲刈り。推奨された品種は在来品種であること、化学肥料を要求していないことから、資金制約のある農民にも採用できる技術パッケージである。サンプル数は、初年度にトレーニングを実施した農民組織に属する農家 78 戸、2 年目にトレーニングを実施した農民組織に属する農家 101 戸、トレーニングを受けなかった農民組織に属する農家 78 戸であり、トレーニング前の平均単収は 1.8t/ha であった。分析の結果、トレーニングを受けた農民組織の農民はほとんどすべての技術について、対照群と比べて有意に採用率がたかかった。また、コメ単収は、平均して対照群よりも 450 から 550kg/ha 上昇した。また単収の上昇の要因の分析から、農家が稲作技術をパッケージで採用した場合であることも明らかとした。以上から、技術パッケージのトレーニングが有効であり、改良品種の採用や化学肥料の投入がなくても、栽培技術の改善により生産性上昇の効果があることが示された。

### トレーニングの対象は誰か

季節的に河川が氾濫したり、地下水が滞留したりする低湿地は、耕作に利用されなかったり、女性に使用権が与えられたりするなど、アフリカの一部地域では畑地とは異なる扱いを伝統的に受けてきた。ザンビアの北部の低湿地は利用頻度が低く、使用権が畑地と異なり個人に付与されるため、世帯主（主として男性）でなく女性が使用権を持つことも多い。

そこで本研究 (Miura, Kijima, and Sakurai, 2021) は、ザンビア北部のカッパーベルト州で稲作の可能な低湿地を持つ村を 40 か村無作為に選んで実験の対象とした。まず、無作為に選んだ合計 621 世帯を対象にベースライン調査を行い、その後、各村でコメの種子の販売会を実施し、低湿地向けの改良品種の種子を販売したところ 190 世帯が種子を購入した。次に稲作技術のデモンストレーションを含むトレーニング実験を 3 - 4 か村に 1 つ設置した展示圃場で実施した。この実験の対象は、夫婦が揃っている世帯で、種子購入世帯のうち 156 世帯が該当した。種子を購入した夫婦からランダムに選んだ 79 世帯には妻にトレーニングの招待状を送り、残りの 77 世帯には夫にトレーニングの招待状を送った。招待状には世帯員のだれがトレーニングに参加してもよいと記してある。その結果、招待状を受け取った者がトレーニングに参加する傾向が強いことが確認できた。しかし、招待状を受け取った者の配偶者がトレーニングに参加する（世帯内の情報共有）ことも観察できた。次に、低湿地の管理者が夫婦のどちらなのかという情報を加えて分析した。妻がトレーニングの招待状を受け取った場合、妻のトレーニング参加は低湿地の管理者によらず促されるが、夫のトレーニングの参加は低湿地の管理者によることがわかった。つまり、妻が管理者の場合は夫の参加も増えるが、夫が管理者の場合には夫の参加に影響せ

ず、むしろだれもトレーニングに参加しない結果になる可能性が高いことが示された。以上から、個人管理(世帯管理でなく)の傾向の強いアフリカの天水低湿地の稲作では、実際の耕作者を技術普及の対象として選ぶことの重要性が示された。

#### トレーニングで何を伝えるか

アフリカの稲作のトレーニングは生産性を高めるような(アジア型の)栽培技術を伝授することを中心に実施され、上に示したように、持続的な生産性向上をおおむね実現してきた。ところが、アフリカでは国産米の品質が低く、都市の市場で輸入米に対抗できないという問題があり、生産を増やしても農民の所得向上につながらない。そこで、精米の原料となる籼米の品質を上げ、市場価値を高めることが重要な課題である。その点にもトレーニングは有効だろうか。

そこで本研究(Ogura, Awuni, and Sakurai, 2023)は、ガーナ北部でフィールド実験を行った。108か村を無作為に選択し、各村から10人のコメ生産者を無作為に選んだ。108か村の半数を無作為に選び処理村とした。処理村では、籼米の品質を向上させる技術(アロマ品種の採用、保証種子の使用、塩水による種子選抜、圃場の均平化、コンバインハーベスターの利用、化繊シート上での脱穀)の実施方法や市場における品質評価に使われる8つの品質指標(品種の混合、水分含有量など)および品質に応じた籼米買取価格に関する情報を農家に知らせた。介入前後に収集した2時点のデータを用いた分析の結果、介入は品質向上技術の採用(コンバインハーベスターの利用またはシート上での脱穀)に有意な影響を与えたことがわかった。さらに介入を受けた農民は対照農民と比べて香り米を村外で販売する傾向が強く、その販売価格が有意に高かった。このように、籼の品質向上の手法および品質評価の指標に関する情報を提供することで、農家の籼の生産と販売を改善したと結論づけられる。以上より、稲作のトレーニングは、生産性だけでなく、品質向上にも有効であることが明らかとなった。

#### <引用文献>

- Atinga, D. and T. Sakurai. 2023. "Weather matters: Going beyond productivity decline, from technology adoption to disadoption." Paper presented at the 11th ASAE International Conference, Tokyo, Japan, March 19, 2023.
- Chege, H. N. 2020. "Improving Rice Farmers' Productivity in Sub Saharan Africa: An Impact Evaluation of JICA'S Intervention in Mwea Irrigation Scheme, Kenya." Master's Thesis, Department of Agricultural and Resource Economics, The University of Tokyo (supervised by T. Sakurai).
- Kajisa, K. and T. T. Vu. 2023a. "The Case of Mozambique: The Importance of Management Training for Rice Farming in Rainfed Areas." In *Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa*, 111–40. Singapore: Springer Nature Singapore.
- . 2023b. "The Importance of Farm Management Training for the African Rice Green Revolution: Experimental Evidence from Rainfed Lowland Areas in Mozambique." *Food Policy* 114: 102401.
- Kijima, Y. 2022. "Long-Term and Spillover Effects of Rice Production Training in Uganda." *Journal of Development Effectiveness* 14 (4): 395–415.
- . 2023. "The Case of Uganda: Long-Term and Spillover Effects of Rice Production Training." In *Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa*, 97–110. Singapore: Springer Nature Singapore.
- Komatsu, S, K. Saito, and T. Sakurai. 2022. "Changes in Production, Yields, and the Cropped Area of Lowland Rice over the Last 20 Years and Factors Affecting Their Variations in Côte D' Ivoire." *Field Crops Research* 277: 108424.
- Miura, K., Y. Kijima, and T. Sakurai. 2021. "Incomplete Information Sharing within the Household: Evidence from Participation in Agricultural Training in Zambia." *Japanese Journal of Agricultural Economics* 23: 89–94.
- Nakano, Y. and E. F. Magezi. 2022. "How Can We Achieve Green Revolution in Sub-Saharan Africa? The Case of Tanzania." In *Agricultural Development in Asia and Africa: Essays in Honor of Keijiro Otsuka*, 75–86. Singapore: Springer Nature Singapore.
- Ogura, T., J. A. Awuni, and T. Sakurai. 2023. "Toward Quality Upgrading of Rice Production in SSA: Experimental Evidence from Northern Ghana." In *Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa*, 273–95. Singapore: Springer Nature Singapore.
- Sakurai, T. 2016. "On the Determinants of High Productivity in Rice Farming in Irrigated Areas in Senegal: Efficiency of Large-Scale vs. Small-Scale Irrigation Schemes." In *Pursuit of an African Green Revolution: Views from Rice and Maize Farmers' Fields*, 119–43.
- . 2023. "Irrigation Scheme Size and Its Relationship to Investment Return: The Case of Senegal River Valley." In *Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa*, 223–43. Singapore: Springer Nature Singapore.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 53件 / うち国際共著 17件 / うちオープンアクセス 34件）

1. 著者名 Ogura Tatsuya, Awuni Joseph A., Sakurai Takeshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Toward Quality Upgrading of Rice Production in SSA: Experimental Evidence from Northern Ghana	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 273 ~ 295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Magezi Eustadius Francis, Nakano Yuko, Sakurai Takeshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Mechanization in Tanzania: Impact of Tractorization on Intensification and Extensification of Rice Farming	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 177 ~ 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sakurai Takeshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Irrigation Scheme Size and Its Relationship to Investment Return: The Case of Senegal River Valley	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 223 ~ 243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kajisa Kei, Vu Trang Thu	4. 巻 -
2. 論文標題 The Case of Mozambique: The Importance of Management Training for Rice Farming in Rainfed Areas	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 111 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko	4. 巻 -
2. 論文標題 The Case of Uganda: Long-Term and Spillover Effects of Rice Production Training	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 97 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakano Yuko	4. 巻 -
2. 論文標題 The Case of Tanzania: Effectiveness of Management Training on Rice Framing and Farmer-to-Farmer Extension	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	6. 最初と最後の頁 75 ~ 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-8046-6_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Magezi Eustadius Francis, Nakano Yuko, Sakurai Takeshi	4. 巻 7
2. 論文標題 Mechanization, Intensification, and Extensification of Agriculture: Evidence from Rice Farming in Tanzania	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JICA Ogata Sadako Research Institute Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogura Tatsuya, Awuni Joseph A., Sakurai Takeshi	4. 巻 8
2. 論文標題 Toward Quality Upgrading of Rice Production in SSA: Experimental Evidence from Northern Ghana	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JICA Ogata Sadako Research Institute Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kajisa Kei, Vu Trang Thu	4. 巻 114
2. 論文標題 The importance of farm management training for the African rice Green Revolution: Experimental evidence from rainfed lowland areas in Mozambique	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Food Policy	6. 最初と最後の頁 102401 ~ 102401
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.foodpol.2022.102401	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto Masato, Yamaji Eiji, Sakurai Takeshi	4. 巻 13
2. 論文標題 Impact Assessment of System of Rice Intensification Adoption - Case from Madagascar	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental and Rural Development	6. 最初と最後の頁 95 ~ 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Long-term and spillover effects of rice production training in Uganda	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Development Effectiveness	6. 最初と最後の頁 1 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19439342.2022.2047763	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Effect of Nigeria's e-voucher input subsidy program on fertilizer use, rice production, and household income	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Food Security	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12571-022-01273-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Komatsu Shota, Saito Kazuki, Sakurai Takeshi	4. 巻 277
2. 論文標題 Changes in production, yields, and the cropped area of lowland rice over the last 20 years and factors affecting their variations in Côte d'Ivoire	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Field Crops Research	6. 最初と最後の頁 108424 ~ 108424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.fcr.2021.108424	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ibrahim Latif Apaassongo, Sakurai Takeshi, Tachibana Towa	4. 巻 -
2. 論文標題 Toward higher import substitution: does quality governance matter for uptake and pricing of improved local rice in Ghana?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Agribusiness in Developing and Emerging Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JAEE-08-2021-0197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakano Yuko, Magezi Eustadius Francis	4. 巻 -
2. 論文標題 How Can We Achieve Green Revolution in Sub-Saharan Africa? The Case of Tanzania	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Agricultural Development in Asia and Africa: Essays in Honor of Keijiro Otsuka	6. 最初と最後の頁 75 ~ 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-5542-6_6	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko, Tabetando Rayner	4. 巻 -
2. 論文標題 RePEAT: Looking Back on 20 Years of Achievements	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Agricultural Development in Asia and Africa: Essays in Honor of Keijiro Otsuka	6. 最初と最後の頁 99 ~ 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-5542-6_8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Solomon Haddis, Kijima Yoko	4. 巻 14
2. 論文標題 Does Land Certification Mitigate the Negative Impact of Weather Shocks? Evidence from Rural Ethiopia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 12549 ~ 12549
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su141912549	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kodama Wataru, Miura Ken, Sakurai Takeshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Basis Risk and Low Demand for Weather Index Insurance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4191761	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kassa Landry B., Sakurai Takeshi	4. 巻 24
2. 論文標題 Diversification in Crop-Livestock Farming Systems and Its Effects on Farm Households' Livelihoods in Benin	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 35 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.24.0_35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miura Ken, Kijima Yoko, Sakurai Takeshi	4. 巻 23
2. 論文標題 Incomplete Information Sharing within the Household: Evidence from Participation in Agricultural Training in Zambia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 89 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.23.0_89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Magezi Eustadius Francis, Nakano Yuko, Sakurai Takeshi	4. 巻 23
2. 論文標題 Determinants of Mechanization in Rice Production in Tanzania : Evidence from Panel Data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 77 ~ 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.23.0_77	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kajisa, K. and Vu, T. T	4. 巻 226
2. 論文標題 The importance of farm management training for the African rice Green Revolution: experimental evidence from rainfed lowland areas in Mozambique	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JICA Ogata Research Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nikiema Relwende A., Sakurai Takeshi	4. 巻 52
2. 論文標題 Intrahousehold distribution of sales revenue and household nutritional outcomes: What if the wives controlled the farm revenue?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 1029 ~ 1040
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/agec.12664	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nikiema Apollinaire R., Sakurai Takeshi	4. 巻 23
2. 論文標題 Does Comparative Advantage Matter in Farm Household Market Participation? Evidence from Smallholders in Burkina Faso	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 101 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.23.0_101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rajibul Alam, Kijima Yoko	4. 巻 44
2. 論文標題 Can a Higher Wage Attract Better Quality Applicants without Deteriorating Public Service Motivation? Evidence from the Bangladesh Civil Service	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Public Administration	6. 最初と最後の頁 74 ~ 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01900692.2020.1729185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miura Ken, Kijima Yoko, Sakurai Takeshi	4. 巻 20-01
2. 論文標題 Intrahousehold Bargaining and Agricultural Technology Adoption : Experimental Evidence from Zambia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 GRIPS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nikiema Apollinaire R., Sakurai Takeshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Asymmetry in Transaction Costs and Price Transmission: The Case of Cowpea Market in Burkina Faso	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 89 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Latif Apaassongo Ibrahim, Sakurai Takeshi, Tachibana Towa	4. 巻 22
2. 論文標題 Local Rice Market Development in Ghana: Experimental Sales of Standardized Premium Quality Rice to Retailers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 118 ~ 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kapalata Deogratius, Sakurai Takeshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Adoption of Quality-Improving Rice Milling Technologies and Its Impacts on Millers' Performance in Morogoro Region, Tanzania	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 101 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaki Ryosuke, Sakurai Takeshi	4. 巻 22
2. 論文標題 The Adoption of Upland Rice by Lowland Rice Farmers and Its Impacts on Their Food Security and Welfare in Madagascar	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 106 ~ 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_106	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Muhammad Fawad Khan, Kurosaki Takashi, Sakurai Takeshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Contract Farming, Loan Repayment Ability and Access to Credit of Small Farmers in Pakistan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 123 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogura Tatsuya, Joseph A. Awuni, Sakurai Takeshi	4. 巻 22
2. 論文標題 The Impact of Quality-Based Pricing Scheme on Local Paddy Transactions in the Northern Region of Ghana	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 147 ~ 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kijima Yoko	4. 巻 22
2. 論文標題 Japanese Agricultural ODA and Its Economic Impacts: Technological Assistance for the Rice Green Revolution in Sub-Saharan Africa	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 74～81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_74	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko, Tabetando Rayner	4. 巻 91
2. 論文標題 Efficiency and equity of rural land markets and the impact on income: Evidence in Kenya and Uganda from 2003 to 2015	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Land Use Policy	6. 最初と最後の頁 104416～104416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.landusepol.2019.104416	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Rajibul Alam, Kijima Yoko	4. 巻 44
2. 論文標題 Can a Higher Wage Attract Better Quality Applicants without Deteriorating Public Service Motivation? Evidence from the Bangladesh Civil Service	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Public Administration	6. 最初と最後の頁 74～89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01900692.2020.1729185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Guantai Fredah, Kijima Yoko	4. 巻 57
2. 論文標題 Ethnic Violence and Birth Outcomes: Evidence From Exposure to the 1992 Conflict in Kenya	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Demography	6. 最初と最後の頁 423～444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13524-020-00864-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakano Yuko, Magezi Eustadius F.	4. 巻 133
2. 論文標題 The impact of microcredit on agricultural technology adoption and productivity: Evidence from randomized control trial in Tanzania	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 World Development	6. 最初と最後の頁 104997 ~ 104997
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2020.104997	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eustadius Francis Magezi, Nakano Yuko	4. 巻 22
2. 論文標題 The Impact of Microcredit on Household Income: The Case of BRAC in Tanzania	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 129 ~ 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.22.0_129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井武司	4. 巻 -
2. 論文標題 貧困削減	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経済学辞典	6. 最初と最後の頁 582-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井武司	4. 巻 -
2. 論文標題 アフリカ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経済学辞典	6. 最初と最後の頁 608-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加治佐敬	4. 巻 -
2. 論文標題 緑の革命	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経済学辞典	6. 最初と最後の頁 572-573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木島陽子	4. 巻 -
2. 論文標題 構造調整政策と化学肥料補助金	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経済学辞典	6. 最初と最後の頁 580-581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加治佐敬	4. 巻 -
2. 論文標題 緑の革命	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 開発経済学：アジアの農村から	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arimoto Yutaka, Kono Hisaki, Ralandison Tsilavo, Sakurai Takeshi, Takahashi Kazushi	4. 巻 67
2. 論文標題 Price and Nonprice Information Frictions in Regional Arbitrage: The Case of Rice Traders in Antananarivo, Madagascar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic Development and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 273 ~ 313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/698163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 Kajisa Kei	4. 巻 -
2. 論文標題 Role of Community and Government in Irrigation Management in Emerging States: Lessons from Japan, China, and India	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Paths to the Emerging State in Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 273 ~ 292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-3131-2_12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogura Tatsuya, Sakurai Takeshi	4. 巻 21
2. 論文標題 Does a Market-Oriented Variety Change Rice Farming in SSA?: Evidence from a New Aromatic Rice Variety in Northern Ghana	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 68 ~ 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.21.0_68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijima Yoko	4. 巻 14
2. 論文標題 Farmers' risk preferences and rice production: Experimental and panel data evidence from Uganda	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0219202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana Towa, Goto Rie, Sakurai Takeshi, Rayamajhi Santosh, Adhikari Angel, Dow William H.	4. 巻 238
2. 論文標題 Do remittances alleviate negative impacts of disaster on mental health? A case of the 2015 Nepal earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 112460 ~ 112460
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.112460	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wu Wenchao, Chien Hsiaoping, Sakurai Takeshi, Muranaka Satoru	4. 巻 121
2. 論文標題 Vertical price transmission in the Nigerian cowpea market	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 British Food Journal	6. 最初と最後の頁 2730 ~ 2745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/BFJ-09-2018-0591	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野優子	4. 巻 219(1)
2. 論文標題 タンザニアの稲作農業の発展	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Maki, Kijima Yoko, Otsuka Keijiro	4. 巻 62
2. 論文標題 Is the learning crisis responsible for school dropout? A longitudinal study of Andhra Pradesh, India	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Development	6. 最初と最後の頁 245 ~ 253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijedudev.2018.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakano Yuko, Tanaka Yuki, Otsuka Keijiro	4. 巻 49
2. 論文標題 Impact of training on the intensification of rice farming: evidence from rainfed areas in Tanzania	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 193 ~ 202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/agec.12408	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakano Yuko, Tsusaka Takuji W., Aida Takeshi, Pede Valerien O.	4. 巻 105
2. 論文標題 Is farmer-to-farmer extension effective? The impact of training on technology adoption and rice farming productivity in Tanzania	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 World Development	6. 最初と最後の頁 336 ~ 351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2017.12.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Pede Valerien O., Areal Francisco J., Singbo Alphonse, McKinley Justin, Kajisa Kei	4. 巻 49
2. 論文標題 Spatial dependency and technical efficiency: an application of a Bayesian stochastic frontier model to irrigated and rainfed rice farmers in Bohol, Philippines	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 301 ~ 312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/agec.12417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ralandison, T., Y. Arimoto, H. Kono, T. Sakurai, and K. Takahashi	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Rice flows across regions in Madagascar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Journal of Agricultural and Resource Economics	6. 最初と最後の頁 78 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kijima, Y.	4. 巻 161
2. 論文標題 Long-term and Spillover Effects of Rice Production Training in Uganda	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JICA Research Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sanou Bakary, Savadogo Kimseyinga, Sakurai Takeshi	4. 巻 19
2. 論文標題 Determinants of Adoption and Continuous Use of Improved Maize Seeds in Burkina Faso	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 21～26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18480/jjae.19.0_21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kajisa Kei, Dong Bin	4. 巻 31
2. 論文標題 The Effects of Volumetric Pricing Policy on Farmers' Water Management Institutions and Their Water Use: The Case of Water User Organization in an Irrigation System in Hubei, China	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The World Bank Economic Review	6. 最初と最後の頁 220～240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/wber/lhv034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Rahman, M. S., M. A. S. Mandal, K. Kajisa, and H. Bhandari	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 Farm Size and Productivity in Rice Farming: recent empirical evidence from Bangladesh	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bangladesh Journal of Political Economy	6. 最初と最後の頁 51～70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計89件(うち招待講演 6件/うち国際学会 18件)

1. 発表者名 Tatsuya OGURA, Joseph A. AWUNI, Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Impact of selling rice to the large-scale milling plant: evidence from Ghana
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 David ATINGA、 Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Weather matters: Going beyond productivity decline, from technology adoption to disadoption
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Francis Ndip EBAI、 Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Contract farming in a staple crop and poverty: Empirical evidence from Senegal
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nan DA、 Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 The impact of market-oriented extension on smallholder farmers in Burkina Faso
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zoniaina Sandratra RAMAHAIMANDIMBY、 Sakiko SHIRATORI、 Jules RAFALIMANANTSOA、 Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Farmers' responses to intra-seasonal rainfall variability in central Madagascar, and their effects on child stunting
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Lateef Olalekan BELLO、Bola Amoke AWOITIDE、Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Does multiple adoption of climate-smart agricultural technologies (CSAT) improve smallholder farmers' welfare? Evidence in Sahelian region of West Africa
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Wendata Achille KAFANDO、Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Armed terrorist incidents and households' food security in Burkina Faso: Differential impacts, mechanisms, and coping strategies
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuko NAKANO、Eustadius Francis MAGEZI
2. 発表標題 Sustainability of effect of rice cultivation training program and its spillover: The case of rainfed areas in Tanzania
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuko NAKANO
2. 発表標題 Sustainability of effect of rice cultivation training program and its spillover effect: The case of rainfed areas in Tanzania
3. 学会等名 Festschrift Workshop for Professor Keijiro Otsuka
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuko NAKANO
2. 発表標題 Mechanization, Intensification, and Extensification of Agriculture: Evidence from Rice Farming in Tanzania
3. 学会等名 大阪大学待兼山セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko NAKANO
2. 発表標題 Sustainability of effect of rice cultivation training program and its spillover effect: The case of rainfed areas in Tanzania
3. 学会等名 Workshop on Green Revolution in Africa (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Asami Ozawa and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Polygamy and Agricultural Efficiency : The Case of Burkina Faso
3. 学会等名 日本農業経済学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Eustadius Francis MAGEZI、Yuko NAKANO、Takeshi SAKURAI
2. 発表標題 Can smallholder farmers benefit from mechanization in Sub-Saharan Africa? Evidence from rice cultivation in Tanzania
3. 学会等名 Agricultural and Applied Economics Association (AAEA) Annual Meeting
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Landry Bellarmin Kassa and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Diversification in Crop-livestock Farming Systems and Effect on Farm Household Livelihoods in Benin
3. 学会等名 日本農業経済学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daniel Elliot Kwantwi and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Long-term Impact of Language-in-Education Policy on Education, Literacy, and Welfare in Ghana
3. 学会等名 日本農業経済学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ai Watanabe, Tsilavo Ralandison, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Impact of Husbands' and Wives' Risk Preference, Bargaining Power on Technology Adoption of Rice Farming: The Case of Rural Madagascar
3. 学会等名 日本農業経済学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Nakano
2. 発表標題 Can smallholder farmers benefit from mechanization in Sub-Saharan Africa? Evidence from Rice farming in Tanzani
3. 学会等名 International Association of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年



1. 発表者名 Yuko Nakano
2. 発表標題 Can smallholder farmers benefit from mechanization in Sub-Saharan Africa? Evidence from Rice farming in Tanzania
3. 学会等名 日本経済学会2021年度春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Davaatseren Narmandakh and Takesh Sakurai
2. 発表標題 Examining the Impact of Foot-and-Mouth Disease, Quarantine in Mongolian Pastoralists Herd Composition, Farm Income and Cost, Household Income
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Xu He and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Land Titling Project and Farmland ize Misperception in Rural China
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ryosuke Ozaki and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 The Impacts of Fertilizer Use on Profit for Two Types of Rice Cultivations in Madagascar
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Zoniaina Ramahaimandinby and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Vegetable Production and its Impact on smallholder Farmers' Livelihood: The Case of the Central Highlands of Madagascar
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Eustadius Francis Magezi, Yuko Nakano, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Determinants of Mechanization in Rice Production in Tanzania: Evidence from a Panel Data
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Apollinaire Relwende Nikiema and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Does Comparative Advantage Matter in Farm Household's Market Participation?: The smallholders Marketing Behavior in Burkina Faso
3. 学会等名 2020年日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miura, Yoko Kijima, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Intrahousehold Bargaining and Agricultural Technology Adoption: Experimental Evidence from Zambia
3. 学会等名 Oxford CSAE Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miura, Yoko Kijima, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Information Sharing within the Household: Evidence from Participation in Agricultural Training, Zambia
3. 学会等名 2020年日本農業經濟学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yan Gu, Jun Furuya, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Willingness to Pay for Index Insurance against Saline Water Intrusion: The Case of Rice Farmers in Ayeyawdy Delta of Myanmar
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoki Machida, Jun Furuya, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Productivity and Weather Shock Risks of Rice Production in Ayeyarwady Delta of Myanmar
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Karimjee Yusuf and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Violence and Poverty Traps: An Assessment of the Impact of Political Violence on Poverty Dynamics of Rural Households in Kenya
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nikiema R. Apollinaires and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Transaction Costs and Price Transmission: The Case of Cowpea Market in Burkina Faso
3. 学会等名 2019年日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Deogratius Kapalata and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Improved Rice Milling Technology and Services and Its Impact of Rice Quality and Enterprise Performance: A Case Study of Rice Milling in Morogoro Region, Tanzania
3. 学会等名 2019年日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryosuke Ozaki and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Impacts of Upland Rice Farming on Farmers' Welfare in Madagascar
3. 学会等名 2019年日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ibrahim Latif Apaassongo, Takeshi Sakurai, and Towa Tachibana
2. 発表標題 Local Rice Market Development: A Modelling of Retailer Response to Exogenous Product Differentiation
3. 学会等名 2019年日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Muhammad Fawad Khan, Takashi Kurosaki, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Farmers' Credit and the Role of Contacting Companies: A Case-Study of Small-scale Tobacco Growers in Pakistan
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Eustadius Francis Magezi and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 The Impact of Micro Credit on Household Income: The Case of BRAC in Tanzania
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Kijima, Ken Miura, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Who Should We Target for Agricultural Technology Diffusion?: Experimental Evidence from Zambia
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Ogura, Joseph A. Awuni, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Is Quality Matters for Agriculture in SSA?: A Case of Rice Marketing in Northern Region
3. 学会等名 2019年日本農業經濟学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Ogura, Joseph A. Awuni, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Determinants of Rice Seed Quality in Sub-Saharan Africa: Analysis of Directly Measured Seed Quality Data of Rice Farmers
3. 学会等名 TEA会・2019年春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Ogura, Takeshi Sakurai, and Joseph A. Awuni
2. 発表標題 Determinants of Rice Seed Quality in Sub-Saharan Africa: Analysis of Directly Measured Seed Quality Data of Rice Farmers
3. 学会等名 2019年度日本フードシステム学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Ogura, Joseph A. Awuni, and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Quality-Upgrading of Staple Crops Markets in Sub-Saharan Africa? Evidence from Rise of a Rice Grading System in Ghana
3. 学会等名 Young JADE Conference 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Ogura and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 How will a local rice market become aware of quality? A natural experiment in Ghana
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証分析フェーズ2研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井武司
2. 発表標題 農学からSDGsへの貢献
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム「地球システムとわたしたちの生活ー人新世時代の想像力(II)」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Sakurai, Towa Tachibana, and Rayamajhi Santosh
2. 発表標題 Does the Market Economy Save the Local Natural Resources While Improving Human Welfare? The Case of 101 Natural Forests in the Middle Hills of Nepal
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kei Kajisa
2. 発表標題 An impact Evaluation of a JICA rice training program in Zambezia, Mozambique: A proposal for upgrading the survey
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証分析フェーズ2研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shota Komatsu, Yoko Kijima, Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Do Firm Boundary Decisions Affect Firm Performances? The Case of Rice Trading Industry in Nigeria
3. 学会等名 Japanese Association for Development Economists (JADE) conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Kijima
2. 発表標題 Long-term and Spillover Effects of Rice Production Training in Uganda
3. 学会等名 日本農業経済学会 国際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Kijima, Ken Miura, Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Who Should We Target for Agricultural Technology Diffusion?:Experimental Evidence from Zambia
3. 学会等名 2019年日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Xu He and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Transferability of Green Revolution in Sub-Saharan Africa: Impact Assessment of Rice Production Technology Training in Northern Ghana
3. 学会等名 2018年日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gu Yan and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Rice Production Risk and Demand for Saline Water Insurance - In Ayeyawardy Delta of Myanmar -
3. 学会等名 2018年日本農業経済学会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Kei Kajisa
2. 発表標題 Changing characteristics of rice farming in the Philippines under rapid industrialization and increasing labor management difficulty
3. 学会等名 GRIP Development Economics Monthly Seminar
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Kijima
2. 発表標題 Effect of Nigeria's e-voucher input subsidy program on fertilizer use, rice production, and household income
3. 学会等名 TEA会・2018年春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Muhammad Fawad Khan, Yuko Nakano, Takashi Kurosaki
2. 発表標題 Impact of Contract Farming on Land Productivity and Income of Maize and Potato Growers in Pakistan
3. 学会等名 TEA会・2018年春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Nakano and Eustadius Francis Magezi
2. 発表標題 The Impact of Microcredit on Agricultural Technology Adoption and Productivity: Evidence from Randomized Control Trial in Tanzania
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証分析フェーズ2研究会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakurai. T.
2. 発表標題 Green revolution of rice production in sub-Saharan Africa: progress and problems
3. 学会等名 17th ICCAE Open Forum: How far did we achieve in rice research in Kenya? (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 He, X. and T. Sakurai
2. 発表標題 Transferability of Green Revolution in Sub-Saharan Africa: Impact Assessment of Rice Production Technology Training in Northern Ghana
3. 学会等名 2018年度 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawagoe, Y. and T. Sakurai
2. 発表標題 Credit Choice as Marketing Channel Choice:The Effect of Large-scale Miller on Rice Production in Senegal River Valley
3. 学会等名 2018年度 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ogura, T. and T. Sakurai
2. 発表標題 Does a Market-oriented Variety Change Rice Farming in SSA?: Evidence from a New Aromatic Rice Variety in Northern Ghana
3. 学会等名 2018年度 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 Farmers' Risk Preferences and Rice Production: Experimental and Panel Data Evidence from Uganda
3. 学会等名 2018 Taiwan-Japan-Korea International Conference on Agricultural and Resources Economics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 Farmers' Risk Preferences and Rice Production: Experimental and Panel Data Evidence from Uganda
3. 学会等名 2018 International Seminar for Sustainable Agricultural and Rural Development, Center for International Agricultural Development, Seoul National University, South Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Guantai, F., Y. Kijima
2. 発表標題 Ethnic Violence and Birth Outcomes: Evidence from Exposure to the 1992 Conflict in Kenya
3. 学会等名 Hitotsubashi Summer Institute,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yui Kawagoe and Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Credit Choice as Marketing Channel Choice: The Effect of Large-scale Miller on Rice Production in Senegal River Valley
3. 学会等名 2018年度 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakurai, T. and T. Ogura
2. 発表標題 Does Market Demand Lead Agricultural Intensification in SSA? The Case of New Rice Variety in Ghana
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakano, Y. and F. Magezi
2. 発表標題 The Impact of Microcredit on Agricultural Technology Adoption and Productivity: Evidence from Randomized Control Trial in Tanzania
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Kijima
2. 発表標題 Farmers' Risk Preferences and Rice Production: Experimental and Panel Data Evidence from Uganda
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 Effect of Nigeria's e-voucher input subsidy program on fertilizer use, rice production, and household income
3. 学会等名 2018年度 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 Long-term and Spillover Effects of Rice Production Training in Uganda
3. 学会等名 Hayami Conference 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 How sustainable is the impact of training on technology adoption? Evidence from panel data in Eastern Uganda 2009-2015
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakano, Y., T. Takuji, T. Aida, and V. Pede
2. 発表標題 Is Farmer-to-Farmer Extension Effective? The Impact of Training on Technology Adoption and Rice Farming Productivity in Tanzania
3. 学会等名 Annual conference of the International Association of Applied Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Magagi, E. F. and Y. Nakano
2. 発表標題 The Impact of Microcredits on the Technology Adoption and Productivity of Rice Cultivation - The Case of BRAC Program in Tanzania -
3. 学会等名 Theoretical Economics and Agriculture
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Irrigation policies under rapid industrialization and labor migration: lessons from Japan, China and India
3. 学会等名 Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sakurai. T. and T. Ogura
2. 発表標題 Impact of New Generaiton Rice Variety in Northern Ghana
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sakurai. T.
2. 発表標題 Weather Shock on Household Welfare: Health, Labor Supply, and Food Consumption
3. 学会等名 International Symposium "Development of Climate Change Adaptation Strategies for Human Health Impacts in Urban Area of East Africa" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小倉達也・櫻井武司
2. 発表標題 Following market or keeping habit?:rice seeds choice of rain-fed farmers in Northern Ghana
3. 学会等名 2017年度日本農業経済学会
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ibrahim, L. A. and T. Sakurai
2 . 発表標題 Setups or setbacks to informal enterprise performance:A re-view of street food trade regulations through Porter ' s lenses
3 . 学会等名 2017年度日本農業経済学会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sanou, B. and T. Sakurai
2 . 発表標題 How Does Artisanal and Small-Scale Gold Mining (ASGM) Affect Food Crops Production in Rural Area? Evidence from Burkina Faso
3 . 学会等名 2017年度 日本農業経済学会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Momade, A. L. C. R. and T. Sakurai
2 . 発表標題 Assessing the Impact of Subsidized Credit on Commercialization of Vegetable Production inMozambique
3 . 学会等名 第67回地域農林経済学会大会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Mouzinho, B. R. and T. Sakurai
2 . 発表標題 Who benefit from rice contract farming in Mozambique? Evidence from Chokwe irrigationscheme
3 . 学会等名 第67回地域農林経済学会大会
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井武司
2. 発表標題 SDGs (持続可能な開発目標) への 農学研究の課題と展望
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「地球環境変化研究の転換期における人間的側面研究の強化と推進に向けて」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kono, H., Y. Arimoto, T. Ralandison, T. Sakurai and K. Takahashi
2. 発表標題 T.B.A. (To Be Arbitrated)?: Extensive and Intensive Margin in Rice Trading in Madagascar
3. 学会等名 Hayami Conference 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kitsuki, A. and T. Sakurai
2. 発表標題 Seasonality of Food Insecurity in Rural Zambia
3. 学会等名 Hayami Conference 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kishimoto, M., E., Yamaji, T. Sakurai, and T. Ralandison
2. 発表標題 Assessing the impact of the System of Rice Intensification on the yield and household income on Madagascar Central Highland
3. 学会等名 Paddy and Water Environment Engineering 2017 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Wu, W., H. Chien, T. Sakurai. and S. Muranaka
2. 発表標題 Vertical Price Transmission in Nigeria Cowpea Market
3. 学会等名 91st Annual Conference of the Agricultural Economics Society
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Umetsu, C., T. Sakurai, T. Yamauchi., H. Miyazaki, and M. Mwale
2. 発表標題 Climate Change, Agricultural Production and Nutrition: Towards Integrated Policy Design for Food Security
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kitsuki, A. and T. Sakurai
2. 発表標題 Seasonal Hunger: Heterogenous Impacts of Seasonal Price Changes on Seasonal Consumption in Rural Zambia
3. 学会等名 Agricultural & Applied Economics Association Annual Meeting 2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Irumba, H. and Y. Nakano
2. 発表標題 Impact of Fertilizer Subsidy on Fertilizer Use and Productivity of Small-Scale Rice Farmers in Tanzania
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 Obstacles to agricultural development in Nigeria: Political connection, communal violence, and access to information
3. 学会等名 ESP 15th General Meeting
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mwesyege, F. and Y. Kijima
2. 発表標題 Land tenure security and rice production: Evidence from JICA project communities in Eastern Uganda
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kijima, Y.
2. 発表標題 How sustainable is the impact of training on technology adoption? Evidence from 3-year panel data in Eastern Uganda
3. 学会等名 サブサハラアフリカにおける米生産拡大の実証研究フェーズ2 研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 加治佐敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 経済発展における共同体・国家・市場	

1. 著者名 Jonna P. Estudillo, Yoko Kijima, and Tetsushi Sonobe	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 420
3. 書名 Agricultural Development in Asia and Africa: Essays in Honor of Keijiro Otsuka	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加治佐 敬  (Kajisa Kei)  (50377131)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授   (32601)	
研究分担者	木島 陽子  (Kijima Yoko)  (70401718)	政策研究大学院大学・政策研究科・教授   (12703)	
研究分担者	中野 優子  (Nakano Yuko)  (60648674)	筑波大学・人文社会系・准教授   (12102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	マゲジ ユースタディウス フランシス  (Magezi Eustadius Francis)		
研究協力者	小倉 達也  (Ogura Tatsuya)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三浦 憲  (Miura Ken)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ザンビア	Zambia Agricultural Research Institute			
ガーナ	University of Development Studies	Savanna Agricultural Research Institute		
ケニア	KALRO	MIAD		
コートジボワール	Africa Rice Center			
セネガル	Africa Rice Center	ISRA		